



# ガザのパレスチナ難民が

## 湾岸産油国で

# 日本企業と渡り合った話

A Story from Palestinian Memoirs:  
the Man who Involved in Contact Negotiation with the Japanese Company

◆報告者 **鈴木 啓之** (東京大学大学院総合文化研究科 特任准教授)  
(Project Associate Professor, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo)

【報告要旨】

1933年、アシュケロン（現在、イスラエル南部の街）に生まれ、ガザに難民として逃れた少年がいた。彼はカイロで石油工学を学び、サウジアラビア、カタールへと仕事を求めて移動した。成人となった彼はカタールで日本企業を相手に交渉を展開する。今回の報告では、1人のパレスチナ人の回顧録を出発点に、1970年代のパレスチナ問題の地理的広がりを再確認し、そこから現在のパレスチナ情勢についても考えてみたい。

2020. **11.26** (木) 17:00-18:00

■会場 Zoom を用いたオンライン開催

ご参加希望の方は登録フォーム (<https://forms.gle/kYc7bphaiVj2WUoz7>) またはポスター内のQRコードより前日までにお申し込みください。

※ZoomのURLを当日正午までにE-mailアドレスにお送りします。



■主催

- ・東京大学 東洋文化研究所、日本・アジアに関する教育研究ネットワーク  
Institute for Advanced Studies on Asia (IASA), Network for Education and Research on Asia
- ・科研費基盤研究 (A) イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究 (代表: 長沢栄治)  
JSPS: Research Project on Islam and Gender: Towards a Comprehensive Discussion